

主イエス・キリストを礎にして生きる



11月22日「王であるキリスト」の祝日に行橋教会で、宮原司教によって堅信の秘跡が授けられます。

その対象になるのは、新中学1年生から新中学3年生までの皆さんです。しかしそれは中学生だけがそのことに関心をもてばいい、ということではありません。行橋・豊津にあるキリストの共同体として私たちもこの恵みの時に大いに関心を持つように心がけなければならないと思います。キリストの共同体があって、教会共同体の中で、その秘跡が授けられるからです。

*「秘跡」について少し復習しましょう。

「秘跡」という言葉を聞くとすぐ、「七つの秘跡」のことが頭に浮かんでくるでしょうがその言葉は何を言い表しているのでしょうか。簡単に言えば、それは「しるし」を通して「しるされていること」が、信仰の内に「実現する」ということです。「秘跡」は、人の目に見える「もの」「言葉」「動作」を通して目に見えない神の恵みを実際に与える「しるし」です。「秘跡」は神が人生のあらゆる時点で信じる者を訪れ、カブ

け、守り、清め、養い、癒し、繁栄させてくださる目に見える力ある「しるし」です。

*その意味で、真の「秘跡」はイエス・キリストご自身です。神による救いの「しるし」であるイエスは、その救いを全うしました。イエス・キリストは、正に父なる神の「秘跡」です。

*しかし、いつかは自分が父の元に戻ることを知っていたイエスは、使徒たち（教会）にすべてを託し、その教会をご自分の「秘跡」と決めました。最後の晩さんの席でイエスは弟子たちに次の言葉を残しました。「父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊があなたがたにすべてのことを教え、わたしは話したことをことごとく思い起こさせてくださる」と。(ヨハネ14章26) 教会は父なる神の「秘跡」であるイエス・キリストの「秘跡」です。
*「秘跡」である教会の中で、イエス・キリストの意志や指示に従って、信じる人々の人生や教会の生活と活動に合わせ、特定の「しるし」(秘跡)が定められました。それは七つの「秘跡」のことです。
—「堅信の秘跡」はその一つです。

*「堅信」。CONFIRMATIO。



確かなものとされる信仰—カづけられ、ささえられる信仰。聖霊によって。その秘跡を受けると人は、聖霊のあらゆる恵みに満たされ、神から与えられた

使命を果たす人として成長して行きます。
 一神の「命の息」である聖霊の光が注が
 れ、その力を受ける以上、主イエス・キ
 リストを自分の生活や人生の礎にし、
 福音に基づいて生きるように心がけなけ
 ればなりません。

*「堅信」は「秘跡」です。おまじないで
 はありません。だから「秘跡」が成立する
 ために受ける側にはいくつかのことが求
 められます。

1. 必要とする知識を得ること。

受ける「秘跡」は何を意味しているか。
 それを通して自分にもとめられてい
 ることは何か。それを把握することは
 当然必要とされています。

2. 自分の意志で「秘跡」に臨むこと。

自由なしに「秘跡」は成り立ちません。
 だから自分の意志で、受けるか受けな
 いかを決めなければなりません。

3. 信じること。

言うまでもありませんが「堅信の
 秘跡」を受けるに当たって何より欠か
 せないことは信じることです。ただし、
 一信じること、それはただ単に漠然と
 頭で、ある教えに賛同することだけ
 ではありません。

一信じること、それは結婚や葬儀のた
 めにのみ「教会」を思い出すことだ
 けではありません。

一信じること、それは教会の信仰を
 自分のものにし、父なる神の言葉に耳
 を傾け、聖霊に導かれて、行動をも
 って主イエス・キリストの弟子として
 生きることです。堅信の秘跡によって

聖霊に満たされるのは、主イエス・キ
 リストという「福音」を迎え入れ、証
 しするためです。

* 信仰共同体の中で

青少年は、私たち大人をよく見えています。
 その目は時々厳しく、矛盾したことを見逃
 していません。私たちは十分にそのこと
 を意識しているのでしょうか。教会の
 雰囲気、私たち一人ひとりの態度、人との
 接し方が青少年には大きな影響を及ぼ
 していると思います。—それを考えると、
 行橋にある信仰共同体として私たちが
 堅信の秘跡を受ける中学生のことを心に
 留めることは大切なことになるのです。60
 周年を迎える私たちの信仰共同体は 11
 月 22 日の堅信の秘跡に向かって心の
 準備を怠らないように心がけましょう。
 それに当たって保護者の皆さんを始め、私
 たち一人ひとりが次の問いかけについて
 真剣に考えることをお勧め致します。

「主イエス・キリストを生活と人生の礎
 にするためにどれだけ心がけているで
 しょうか」と。

—そのための努力を惜しまなければき
 と中学生にとって私たちは「道」であるイ
 エスへの相応しい案内人となり、支えにな
 ることができるでしょう。

私たちの信仰共同体は心をつにして
 祈り、中学生に声をかけて励ますように
 すれば、11月22日の恵みを、喜びのう
 ちに共に迎えることができるでしょう。
 皆さん、どうかよろしくお願い致します。

